

初秋の韓国低山歩き ①

(2014.9.27～10.1)

関根 茂子

昨年は8月お盆に韓国大田市近辺の低山歩きに出かけたが、暑くて暑くて大変だった。そこで、今年のS姉のお誘いは、安東(アンドン)市で開催(9.26～10.5)される国際仮面舞フェスティバルに合わせて9月末に韓国の山2つを目指すというものだ。

清涼山(チョンリャンサン)869mは、安東の北東にある展望の良い道立公園の山で仏教の痕跡が沢山残っていて、12の峰々の名前も仏教にちなんで付けられている。太白山(テペクサン)1577mは清涼山の北方にあり、南の智異山(チリサン)からずうっと北上していき、中国と北朝鮮の国境にある白頭山(ペクドゥサン)=將軍さまの山へと続く白頭大幹と呼ばれる半島の背骨の一大山脈の盟主であり、こちら道立公園の山とのごとく、太白市(テペクシ)は高原にあるので、山頂への標高差は700m余の登り、また日本の信濃川よりも長い河川洛東江(ラクトンガン)と漢江(ハンガン)の源となっている山とのごとくだ。

S姉いわく「安東市は山形の寒河江市と姉妹都市で、西方にある河回(ハーフェ)村は2010年世界遺産に登録された。伝統的な建物と住居文化、村の中心には樹齢600年の樺のご神木があり、1999年に英国のエリザベス女王も73才の時に安東を訪れたほど～」とのごとく、私は二つ返事



で参加を決めた。

韓国語会話がができるS姉のもと、韓国語が読めて英会話OKの若手Mさん、昨年の山旅後、韓国語学習を始めたTさん、ハングルは全くダメな私とYさん総勢5名のシルバー女子が集まった。韓国の一部屋はダブルとシングルの構成が一般的で、昨年はこのダブルベッドで困った。「費用はかさんでもツインとシングル部屋で」とお願いして空港近くのホテルを手配してもらう。

◆9月27日(土)

成田13:50発(イースタージェットの格安航空便、往復@23,670円)=仁川(インチョン)16:35着。フライトは順調で定時に到着した。

まずは現地共同費用として1人2万円分を両替、レートは日本円1万円=91,104ウォンだった。ここでも円安だ。空港の案内所で日本語のできる案内嬢に「宿泊先のスカイホテルに迎えの車を」と電話をかけてもらう。ついでに明日の安東市の宿も予約、ダブルとシングルの構成のVIPルームに布団を2組いれて部屋代は65,000ウォンで交渉がまとまった。

ホテル着後すぐに夕食にでる。石焼ビビンバとチヂミを注文。キムチ、カクテキ、モヤシのナムルなど小鉢が10個も並ぶ。これがすべてサービスなのだ。ビビンバ(@7,000ウォン)はとてもおいしかった。大きなチヂミは18,000ウォンだったが、



韓国舞踏

ホテルでもらった10%OFFのチラシを見せたら47,700ウォンになり、あれだけ食べて日本円で1人当たり1000円足らずとは！

帰路、明日の早朝発に備えて朝食用食料をコンビニで調達して帰館。今夜はS女史と2人だ。寝相が悪くてベッドから落ちた経験者のわたしは「ダブルベットをどうぞ」と譲られて安心して床に就く。

◆9月28日(日)

安東行き的高速バスが出る東ソウルバスターミナルへは地下鉄を乗り継いでいくのが安くて確実だ。

ホテルに近い地下鉄駅雲西(ウンソ)まで歩いていくつもりだったが仁川国際空港に送る客を乗せた車に同乗して駅に5時30分着、ところがS女史が「部屋にストックを忘れた」と彼女は取りに走る。その間に自動販売機で切符を買う。韓国の地下鉄の切符はカードで発行される。一人分運賃3,650ウォンを支払うが、下車駅でカードを返却すると500ウォンが戻るという仕組みだ。

10分後に汗だくで帰ってきたS姉といっしょに空港線の雲西駅5:53発乗車、弘大入口(ホンデック)駅で2号線に乗り換える。地下鉄車内の電光掲示案内板はハングルだけでなく漢字も出てきて助かる。路線毎に駅に番号がふられていて、通路には乗換案内が色別で表され分かりやすい。東ソウルバスターミナルのある江辺(カンピョン)駅に着いて自動改札にカードをタッチするが何度やっても私は「×」が出て通れない。無人駅なので困っていると、横に柵も何もないHELP通路があり、ノーチェックで出られることを韓国人が教えてくれた。先払い運賃なのだから出られて当たり前なのだ。

バスターミナル窓口で1時間後の8:20発の安東行き高速バス切符(@16,500ウォン)を購入後、朝食となるが、昨夜のビビンバを完食したわた



街角のパフォーマンス

しはおながが一向に空かない。マクドナルドしかやっていないのでコーヒー(@3,000ウォン)を頼む。ハンバーガーとセットで注文した仲間は5,500ウォンとのこと。これは日本並みの料金だ。

ゆったりしたシート的高速バスは途中トイレ休憩を1回はさみ、安東バスターミナルに11:15着、高速バスターミナルは市内から離れた郊外にあり、市内バス(@1,200ウォン)に乗り継いで20分、鉄道安東駅へ行く。

予約したモンモホテルは安東駅の近くだった。荷物を置いて昼食と祭り見物に出かけよう。宿の主人に食事処のおすすめをたずねると、車で案内してくれるという。口で説明しても日本人にはわからないだろうということのよう。食後、地図をよくみれば、宿のすぐ裏手、安東名物のチムタク横町のお店に連れて行かれたのだった。

チムタク専門店は昼時で込んでいた。1皿では足りないという店の人の勧めで2皿注文。安東チムタクは、乱切りのジャガイモ、ネギ、ニンジンなどにぶつ切りの鶏肉と春雨を甘辛く煮込んだ郷土料理だ。注文の数詞「マリ」を耳にしたTさん、「マリ」は、動物、魚、鶏、全て数える単位とのこと。直径40cmもの大皿にたっぷり盛られた料理は、ほくほくジャガイモ(私にはこれが一番おいしかった)歯ごたえのある鶏肉がたっぷり入っている。長いままの春雨はハサミで切って食べるのだ。あの大きさに鶏1匹分の肉が入っていたのかな? 5人で2皿をがんばって食べたが、残してしまいもったいないことをした。

祭りスケジュール表によるとお祭り会場は3ヶ所に分かれている。すでに2時になっているので、バスに乗る会場に行く余裕はない。歩いて10分ほどの公園広場で3時からの韓国舞踏団公演を見ることにしよう。



雲の吊り橋

今日は日曜日、歩いて会場に向かう道も結構混雑している。公園には食べものや土産物を売る出店が数列に並んでいる。仮面饅頭10個入(5,000ウォン)を会社のお土産に購入した。出店のテント列を抜けると体育館があり、その先の広場で催し物をしていた。音のする人だかりに惹かれてのぞいてみたり、店を冷やかしたり歩いて回る。

お目当ての華やかな衣装を身にまとった韓国舞踏団の舞姫たちはオバサマばかり、日舞をやる若い人が少ないように韓国も伝統舞踊には若者の関心は薄いようだ。次の韓国民謡ショーをみて4時に退席、街中でやっている催し物を見に戻る。それが参加型のイベントで商店街の休息コーナーでライブをしているだけだった。

露店のリンゴがおいしそうだったので、明日の山行用に1人1個宛買い求める。大きく立派なリンゴが1個1000ウォン、安東はリンゴの産地だけはあるお値段だ。パン屋で山用のパンを買いこむとこれは日本並みの価格(@3,500ウォン)だった。

歩いていると縫い目はオレンジ色のステッチ、黒地のトレーニングパンツ(@10,000ウォン)が目に入る。「Mでは入らないな」と思っていると店員が次々に大きいサイズを持ってきて試着をすすめる。熱意に負けて穿いてみると入ってしまった。というわけで明日からトレパンと饅頭を背負って山を歩くことになってしまった。駅前で明朝のバス乗り場を確認して宿に戻る途中で仮面をか

ぶった人の列に出会う。私とTさんはその列を追いかけて、街角の仮面パフォーマンスを見物後、宿に戻る。

モーテルというと、韓国ではホテルよりは安い単なるお宿のことで、岩登り、沢登りに通っていたころからS姉は利用していたという。日本では男女で泊まる場所というイメージだから、「主人とS姉がモーテルに泊まった!」と同行の男性の奥さんから怒りの電話がきたのもさもありなん。

細身のTさんがソファで寝るといってくれたので、2ベッド、2布団で5人が収まった。締めて65,000ウォンだから1泊@13,000ウォン(=日本円1,300円)とは格安だ。

◆9月29日(月)

4:30起床、安東駅前67番乗り場から5:50発清涼山行きバス(@1,200ウォン)に乗車、道路にすらっと路駐の車が並び一昔前の日本の情景を車窓に市内を走り抜け、洛東江の上流に当たるダム湖を横目に清涼山へ6:35着。

身支度を整えて6:45出発。川沿いに少し歩き本流を橋で渡ると、山頂から縦走して下りてくる1つ目の登山口がある。清涼山の登山口は4つあるが、最も楽な一番奥の登山口から登ろう。清涼山道立公園の門(7:00)をくぐって沢沿いの緩く上る車道を進む。後ろから乗り合いバスが追い抜く。奉化(ボンファ)からの清涼山行きのバスのようだ。向かいの山に滝がかかるところにも登山口がある。その先にバス停とトイレがあり、案内所らしき建物は閉っていた。不要の荷を預けられるかと期待したのに残念!さらに進んであずま屋がある清涼寺登山口。ここが奉化からのバス終点だ。

4つ目の登山口までそこから20分で到着、入口は木の階段だがすぐに小沢沿いの緑あふれる山道になる。私好みの森林浴登山道だ。去年、覚えたフモトナラという、標高が低い所に生えているのに葉柄がないナラの木が目につく(あれから日本でも桐生の里山でフモトナラを確認した)。樹木の間の山道は、葉っぱの緑のテントに覆われているようでいい気分です。雨はたいしてあたらなかったが、雨音が激しくなり傘をさして歩いた。(続く)